



2023/07/27 ぐんぐんPOE開所式

「手話言語について」 河崎佳子より

今日は、手話言語について、私の思いを少しお話しします。

私は、一人の臨床心理士として、30歳のときに手話講座に通って手話を学び始めました。心理療法やカウンセリングで支援する対象に、きこえない人がいると気づいたからです。それまで、きこえない人と接した体験はまったくありませんでした。でも、なんとなく知る知識から、きこえない子は、手話で家庭生活、学校生活をしていると思い込んでいました。実は、きこえる人が自分自身の生育体験と照らし合わせて想像するとき、それが自然な発想なのだと思います。

ところが、ろう教育は当時、人工的なものでした。人工的というのは、きこえない人にとっての自然言語を故意に遠ざけ、代わりに、音声言語（日本語）による口話を課した教育だったということです。つまり、きこえる私たちならば、自然に耳から吸収して母語とできる日本語を、きこえない子どもたちにも「そのようにあれ」としていたのです。

心理面接という支援をとおして、こうした教育と社会のあり方が、きこえない人たちの心理的困難や家族病理の背景にあることを知りました。茶の間の孤独、わからないことを笑って誤魔化す自分への悲しみ、などです。思春期以降に、怒りとなって爆発する人があとを絶ちませんでした。

そして、面接を重ねるなかで、きこえない人々の心を元気にする手話の威力を痛感しました。コミュニケーションにおける同時性、相互性、対等性、効率性を手話が保障するからだと考えています。

きこえない人たちに出会って間もなくして、難聴児支援の要は、幼少期、できれば赤ちゃんの時に、家族と共に手話に出会うことだと思えるようになりました。でも、その支援の壁は、とても厚かったです。

27年間描き続けた夢が「こめっこ」（大阪府手話言語条例に基づく施策としての大阪府委託事業 NPO こめっこ主催）の活動で叶い、5年を経て、夢はさらに膨らみ「ぐんぐんPOE」が生まれました。

言語の定義として、共通して言われることに、「独自の文法をもつこと」と「周りにその言語があれば、自然習得されて母語となること」があります。手話言語は、学術的に認められた言語です。

次に、言語には、「かたち」と「意味」という二つの要素があります。「かたち」というのは、文法であったり、音韻とか発音であったり、文字であったり、形式の部分です。一方、「意味」は、それによって伝えられる内容です。

自然習得というのは、学んだとか、訓練したとかではなく、文法や発音が勝手に身についてしまうことなので、かたちにエネルギー使わずとも、意味、つまり



内容に集中できます。3歳児がすでに母語を獲得して、「よう通じて、内容よう分かってるわあ」というのが、これに当たります。

健聴者にとっては、「きいていたら、わかるもん！」の音声言語。息をするように耳から入ってくることばです。同様に、「見ていたら、わかるもん！」の映像言語、息をするように目から入ってくることばが、きこえない人にとっての手話言語です。

難聴児も含め、健聴者と同じようには「きこえない」子どもたちには、見て分かる言語との出会い、気がついたら身につけていたわ、の手話言語をもってほしい。格好いいネイティブサイナーになって、堂々と生きる自信をもってほしいと願っています。それは、一人ひとりの「きこえ」に合ったかたちでの、日本語習得にも寄与します。

最近、韓国チェジュ島で開催された世界ろう者会議に、こめっこスタッフと共に出席してきました。130カ国から2千人、8割方がろう者でしょうか。国際手話、アメリカ手話、韓国手話を中心として、各国の手話が飛び交い、至る場所で、ろう者が熱心に楽しげに手話で議論し、語り合う中にいました。実に、かっこいいです。音声言語に比べて、国境を越えた手話言語の疎通性は高いです。ネイティブサイナーの強みだと痛感しました。こめっこスタッフも、本当にかっこ良かったです。私はまるっきりついていけませんでした。

手話に出会い、手話言語について知り、掘り下げて考えることによって、私は日本語が好きなんだなあ、日本語を愛しているんだなあ、と強く感じるようになりました。そういう言語をもてることは、幸せなことだと思います。骨の髄からわかる、伝わることを実感できる体験をとおして、言語への愛が生まれます。

だから、私は手話を大切にしたい、別の意味で愛したいと心から思うようになりました。きこえない子どもたちとご家族を満面の笑顔にする言語だからです。全部わかるから、楽しいから、うれしいから大好き！そんな日本手話体験が、言語を愛する基盤となって、日本語にも、アメリカ手話にも、英語にも膨らんで、子どもたちは、バイリンガル、マルチリンガルに育ってくれることでしょう。

私が、30余年言いつづけてきたことに、「きこえない子どもは、将来、次世代を育てるきこえない大人になる」があります。成長し、やがてママパパになる子どもたちを、想像してみてください。お孫さんたちに、手話べらべら、自由に話せる親子の体験を保障したいですね。

ぐんぐん POE の子どもたちの成長を、保護者と、そしてお集まりいただいた皆さまと共に、応援していきたいと思ひます。